

常用
简明日语词典
デイリーコンサイス
国語辞典

佐竹秀雄
三省堂编修所
编

WHY®
外教社

上海外语教育出版社

常用
简明日语词典

デイリーコンサイス

国語辞典

佐竹秀雄
三省堂編修所
編

上海外语教育出版社

图书在版编目(CIP)数据

常用简明日语词典/(日)佐竹秀雄,(日)三省堂编修所编. —影印本. —上海:上海外语教育出版社,1999

ISBN 7-81046-559-7

I. 常… II. ①佐… ②三… III. 日语-词典 IV. H366

中国版本图书馆 CIP 数据核字(1999)第19967号

本书由 Japan Uni Agency, Inc. 和上海市版权代理公司代理,取得株式会社三省堂的正式授权。

本书任何部分之文字,如未获得出版者之书面同意,不得用任何方式抄袭、节录或翻印。

本书只供在中华人民共和国境内销售。

出版发行: **上海外语教育出版社**

(上海外国语大学内)

责任编辑: 赵丽君

印刷者: 上海市印刷七厂

经 销: 新华书店上海发行所

开 本: 850×1168 1/32 印张14.5 字数1903千字

版 次: 1999年9月第1版 1999年9月第1次印刷

印 数: 5000册

书 号: ISBN 7-81046-559-7/H·576

定 价: 25.00元

图 字: 09-1998-222号

本版图书如有印装质量问题,可向承印(订)厂调换

1991年3月15日 初版発行
1995年4月1日 第2版発行
1997年11月20日 第2版2色刷発行



デイリーコンサイス国語辞典

第2版 2色刷

1998年3月10日 第2刷発行

編者 佐竹秀雄 (さたけ・ひでお)

三省堂編修所

発行者 株式会社 三省堂 代表者 五味敏雄

印刷者 三省堂印刷株式会社

発行所 株式会社 三省堂

〒101-8371

東京都千代田区三崎町二丁目 22 番 14 号

電話 編集 (03) 3230-9411

販売 (03) 3230-9412

振替口座 00160-5-54300

商標登録番号 521140

〈2版デイリー国語2色・864pp.〉

落丁本・乱丁本はお取替えいたします

ISBN4-385-14109-6

Ⓡ本書の全部または一部を無断で複写複製(コピー)することは、著作権法上での例外を除き、禁じられています。本書からの複写を希望される場合は、日本複写権センター(03-3401-2382)にご連絡ください。

SANSEIDO'S
DAILY
CONCISE
DICTIONARY



【第2版】

佐竹秀雄
三省堂編修所
[編]

2色刷

三省堂

© Sanseido Co., Ltd. 1997

First Edition 1991

Second Edition 1995

Two-Color Edition 1997

Printed in Japan

出版前言

近年来,随着社会的发展,我国读者对日语词典的需求也趋于多元化。为了满足广大日语读者的需要,我社引进了日本三省堂的《デイリーコンサイス国語辞典》,以供大家使用。

本词典中文名为《常用简明日语词典》,是一部信息量大、实用性强、功能齐全、便于携带的袖珍版简明日语词典。它不仅适用于一般的日语学习者,而且对日语工作者来说也是一本使用方便、具有参考价值的工具书。其主要特点如下:

1. 收词量大。所列词条为7万,以现代生活中的常用、基础词汇为主,同时收录了近年来出现的新词以及经过时间考验已经固定下来的外来语。

2. 功能齐全。词条标有声调、词性、汉字等等。

3. 释义简洁、明了、确切。一词多义时,标明原义与派生义的差异,以利于读者更准确地掌握该词的意义和用法。

4. 文字标记规范。对日语汉字作了详尽

的标识,区别常用汉字与非常用汉字;当一个词语有几种汉字写法时,采用了标准标记与参考标记,为读者查阅汉字书写法提供了极大方便。

5. 体例编排新颖,富有特色。为了节省篇幅,采用了以符号代替文字表示的方法,体现了“简明”这一特色。

本词典虽然是日文版,但其释义浅显易懂,相信具有初、中级日语水平的读者都能运用自如,它一定能成为广大读者的常用工具书。

上海外语教育出版社
1999 年元月

まえがき

『デイリーコンサイス国語辞典』は、「現代」という時代の要求に即応し、真に実用性にすぐれた高密度の携帯版国語辞典として4年前に誕生した。幸いに読者の支持を得ることができ、さまざまな有益なご意見・ご要望もいただいている。

この間、社会は、日々あらたな変貌をとげてきた。その社会の変化に応じて、使われる言葉も変化し、一方で新しい言葉が生まれ、また時代に対応できなくなった言葉が消えていった。言葉は時代を映す鏡であり、その言葉を集めた辞書も一種の鏡といえよう。鏡は曇っては役に立たず、いつも磨かれていなくてはならない。鏡としての辞書には、常にその時代を的確に映す言葉を収めていく必要がある。

このような時代を映す鏡の役割を果たすために、つまり、現代の社会生活に必要な言葉の情報を瞬時に取りだせるように、また、内容のさらなる充実をめざして、このたび、改訂版を刊行することにした。使用者の立場にたって、有用な情報をわかりやすく呈示し、真に使いやすい実用性にすぐれた辞書となることをめざした。

初版において本辞典は本格的な国語辞典としてはじめて横組の組版を採用し、紙面の面目を一新した。今回の改訂にあたっては、いっそうの見やすさ・検索性の向上を心がけ、レイアウトにも工夫をこらした。

改訂のための語彙の選定にあたっては、初版刊行後に一般に使われるようになった新語に重点をおき、特に生活語彙を優先して増補した。あわせて項目の見直しを行なって、現代の言語生活を如実に反映した項目を収録するようにつとめた。

内容の充実をはかりつつも、あくまで携帯性・機能性を重視して、ページ数を増やさなかった。そのためにいくつかの組版上の工夫を加えた。

解説は、その語に対して必要な情報を簡潔・明快・的確にわかりやすく呈示することを原則とした。一方で語の使われ方に関する情報は、他の国語辞典に比しても格段の充実をめざした。

特に差別的なニュアンスをもって使われることがある語には、注記をほどこして使われ方の実態がわかるようにした。言葉による差別の問題は時代の変化とともに常に新しい問題として存在する。今後も読者の方々のご批判をあおいでさらに改善

をはかる努力をつづけていきたい。

国語辞典の使用の場面で大きな比重を占めるのは表記の問題である。表記欄については、標準表記・参考表記という新しい考え方で全体を統一し、表記についての疑問にこたえるようにつとめた。

本辞典は、編集にかかわっていただいた多くのかたがたの英知を集め、その努力の結実としてまとめたものである。

佐竹秀雄先生（武庫川女子大学言語文化研究所）には、初版以来一貫して編集の中心となって執筆・校閲をおすすめいただいた。改訂版の刊行にあたり編集にご協力いただいた先生方とともに、初版刊行時に編集に加わっていただいた先生方のお名前をあわせて記して、感謝の気持ちを表したい。（敬称略）

青木和男	石井正彦
井上敬子	漆谷広樹
岡 優子	川元ひとみ
木川行央	小林澄子
斎藤 忍	坂口ゆう子
桜井 隆	佐竹久仁子
沢木幹栄	杉戸清樹
杉本 武	関根一紀
沼田善子	花山愛治（五十音順）

原稿の整理・校正には、今回も有限会社樹林出版のご協力を得た。ここにいちいちのお名前を挙げることはできないが、校正その他の編集業務に関してご協力をいただいた多くのかたがたにお礼を申し上げます。組版・印刷・製本のそれぞれを担当していただいた方々にも謝意を表したい。

本辞典が、今後も常にかわることなく読者のかたがたの座右の辞書としてあることをこころから願っている。

1995 年 2 月

三省堂編修所

初版に引き続き、第2版も幸いにも読者の皆様方から御好評をいただいております。このたび、より見やすい紙面の実現を目ざし、2色刷で刊行いたします。

1997 年 10 月

三省堂編修所

凡 例

- 1 現代の一般社会人が日常生活でよく目にする語を見出しとし、「は」「が」などの助詞や「れる」などの助動詞は、見出しに立てなかった。
- 2 親見出しと子見出し
 - a 親見出しは、現代仮名遣いで、和語・漢語は平仮名、外来語は片仮名で示した。
例 さくら こくさい アイス
 - b 複合語は、3音節以上の上位要素部分が見出しに立っている場合、その語の子見出しとして示した。
例 「桜狩り」は、「桜」の子見出し
「北回帰線」は、「北」の子見出しにはしない
 - c 連語は、原則としてその最初の構成要素の子見出しとして示した。
例 「汗の結晶」は連語で、「汗」の子見出し
 - d 句は、原則としてその最初の構成要素の子見出しとして示した。
例 「手を貸す」は句で、「手」の子見出し
 - e 子見出しは、▶の記号のあとに、～で親見出し該当部分を省略し、漢字仮名交じりで示した。漢字には振り仮名で読みを示した。
例 (さくら) ▶〜狩り
(こうきょう) ▶〜事業
(あせ) ▶〜の結晶
(て) ▶〜を貸す
- 3 見出しの配列
 - a 親見出しは、五十音順に配列した。
外来語の音引きは、ア行の仮名に読み替えて配列し、濁音・半濁音は清音のあと、拗音・促音は直音のあとに配列した。
例 ショーはショオの位置にくる
はい、ばい、ばいの順
きやく、きゃくの順
かつて、かつての順
 - b 子見出しは、親見出しのあとに追い込んで、～に続く部分の五十音順に配列した。
- 4 アクセント
 - a 見出しには、現在、最も普通に行なわれているアクセントを示した。ただし、接頭語・接尾語・語構成要素・連語・句にはアクセントを示さなかった。
 - b アクセントは、下がりめのある音節を小さな数字で示した。
例 あかとんぼ 3音節めに下がりめがあることを示す
みだし 下がりめがないので数字は示さない
- 5 表記（表記については次のページを参照）
 - a 表記は、「現代仮名遣い」「常用漢字表」「送り仮名の付け方」に基づき、現在の最も普通の書き表わし方である表記を標準表記、それ以外の表記で慣用的に使われる表記を参考表記として分けて示した。
 - b 送り仮名は、「送り仮名の付け方」の本則と例外に従った送り仮名だけを示し、原則として許容の送り仮名は示さなかった。
- 6 見出しには品詞を表示した。名詞の用法だけしかない語、および句には表示を省略した。（記号一覧を参照）
- 7 意味・用法
 - a わかりきった意味の場合には、用例や対義語・類義語を示して説明の代わりとした場合がある。
 - b Ⅱの記号で、比喩的な意味や発展的な意味、文脈や場面などで限定された意味、特定の語とつながることによって現れる意味などを示した。

表 記

1 表記の示し方

この辞書では単に漢字での表記形を示すだけでなく、その語が実際にどのように書かれるかの情報をも示している。その際、ごく一般的に書かれる表記としての標準表記と、それ以外にも、ときとして用いられる参考表記とに分けた。標準表記、参考表記の識別のしかたは次の通り。

1 表記の一般的な示し方。

例 からだ[体] (『身』体)

「からだ」という見出しに対して、「体」が一般的な表記であり、「身体」は慣用的な表記であることを意味している。

[] で囲まれたものが標準表記で、() で囲まれたものが参考表記である。一般的に、見出し、[標準表記]、(参考表記)の順に並んでいる。ただし、多くの語では、

例 かんきょう[環境]

のように、参考表記がないのが一般的である。

2 [] で囲んだ表記形がない場合。

例 そっと(副) ①静かに、②…
ソフト soft
それ(『其れ』代)

いずれも見出しの仮名書きそのものが標準表記であることを意味する。すなわち、「そっと」「ソフト」「それ」が標準表記である。

「それ」の場合は、「其れ」という表記は慣用的な表記であり、実際には仮名書きの「それ」が一般的だという意味である。

3 左のカッコ「」がない場合。

例 あいさつ、『挨拶』

標準表記を示す[]の左側の「」がない場合である。これは、「あいさつ」が、「挨拶」とも「あいさつ」とも書かれることを意味している。つまり、漢字書きも仮名書きも、ともに標準表記である。

4 ；の付いている場合。

例 いちご：『苺] いのしし：『猪]
からまつ：唐松] (『落葉松] かもしか：(『羚羊)
からころ：⑩

；が付いているのは、見出し語が動植物、または、擬音語の場合である。動植物と擬音語は、文章の中で統一的に、片仮名で表記されることがよく行なわれる。；は片仮名書きの略号である。

しかしまだ、動植物と擬音語は、平仮名で表記されることもあるし、動植物では、漢字書きもありうる。

つまり、上の例で、「いちご」の場合は、「イチゴ」のほか「いちご」「苺」という表記があることを示している。「からまつ」の場合は、「カラマツ」のほかに「からまつ」「唐松」という表記が一般的な表記で、「落葉松」は参考表記である。そして、「からころ」という擬音語は、「カラコロ」と「からころ」が標準表記である。

5 Ⅰ、Ⅱ…や、①、②…ごとに表記形が示される場合。

例 あつ・い(形) Ⅰ[熱い] ①⑧冷たい ②熱中している。
Ⅱ[暑い] ④寒い
からて[空手] ①[唐手] 武術の一。②てら。⑩徒手
そなえる[備える](ト) ①前もって-用意(準備)する。
②設備する。③[具える] 身につけている。

意味の違いによって表記形が違ってくる場合である。

「あつい」の場合は、Ⅰの意味とⅡの意味とで「熱い」と「暑い」を使い分けられる。それに対して、「からて」の場合は、全般的に「空手」が

使われるが、①の意味では「唐手」も標準表記として使われることを示している。「そなえる」の場合も、「からて」と同様であるが、③の「具える」は参考表記である。

6 ダッシュ — の使われている表記の場合、

例 からあげ〔唐揚げ・空—〕
からオケ〔カラ—〕

ダッシュは同じ表記の省略を意味する。「からあげ」の場合は、「唐揚げ」と「空揚げ」が標準表記であり、「からオケ」は「カラオケ」が標準表記であることを示している。

7 コメント欄 *で説明を加えている場合、

例 ああ、(感) ①嘆声の一、*嗚呼は文語的表記、②…
のみや、[*呑み屋] のみ行為をする元じめ、*ノミ屋とも書く、

標準表記、参考表記以外の表記形に関する情報である。「ああ」の場合、標準表記は仮名書きであるが、コメント欄で、「嗚呼」と書く書き方もあるが、それは文語的な表記であることを述べている。また、「のみや」については、標準表記の「呑み屋」以外に、「ノミ屋」と書かれることもあるという情報を示している。

II 表記形を選ぶときの注意

新聞、教科書や公文書では、「現代仮名遣い」「送り仮名の付け方」「常用漢字表」の範囲内で表記を行なっている。表記は読みやすいことが最も大切であるから、できるだけ多くの人を読み慣れている、これらに従った表記を用いるのがよい。

そこで、この辞書では、標準表記については「現代仮名遣い」と「送り仮名の付け方」の本則と例外に従った書き方を採用するようにした。そして、漢字は、「常用漢字表」に存在するか否かを記号で示している。

この辞書を使って表記形を選ぶときの留意点を以下に述べる。

1 表記形が複数ある場合、

例 しゅのう〔首脳〕(主脳) しょう〔背負う〕
じゅんぼう〔遵法・順法〕 じょうぶ 丈夫

「しゅのう」「しょう」のように標準表記と参考表記がある場合は、標準表記を選べばよい。すなわち、「首脳」「しょう」を選ぶ。また、「じゅんぼう」「じょうぶ」のように標準表記が複数ある場合は、どちらを選んでもよい。

2 標準表記の漢字に「？」や「？」の記号がついている場合、

例 せっこう〔石[?]膏〕
せっけん〔席[?]巻・席[?]捲〕

漢字に記号「？」がついているのは「常用漢字表」にない漢字を意味し、記号「？」がついているのは、「常用漢字表」には含まれているが、その音訓がないことを意味している。

標準表記にそれらの記号が付いている場合も、基本的にはその標準表記を選べばよい。ただし、場合によっては少し配慮を加える必要があるときもある。たとえば、公用文での表記、あるいは教育的配慮を必要とする表記ならば、「石[?]」「席[?]」がついた漢字は、仮名書きにしたり振り仮名をつけたりするのがよい。つまり、「石[?]こう」「席[?]けん」や「石[?]膏」「席[?]巻」と書くのがよい。

3 子見出しの場合、

例 かねもち〔金持ち〕お金をたくさん持っている人。▶～喧嘩[?]い
せず 金持ちは利にさどく、…
cf. けんか〔喧嘩〕

子見出しで、漢字でも仮名でも書かれる語の部分は、多く漢字で表記してある。たとえば、「けんか」については、漢字で示している。実際の表記の際には、その点を考慮されたい。

記号・略語一覧

記号一覧

- ・ 動詞・形容詞などの活用語尾を示す
- 1, 2 … アクセントを示す
- [] 標準表記を示す
- () 参考表記を示す
- ▼ 直後の漢字が常用漢字以外の漢字であることを示す
- 直後の漢字が常用漢字で、「常用漢字表」に示されている音訓以外の音訓であることを示す
- ⋮ あて字・熟字訓であることを示す
- ⋮ その語のカタカナ表記が標準表記であることを示す
- ▶〜 子見出しの始まりを示す
- ▶ 親見出しの用例
- ▷ 子見出しの用例
- 〜〜 見出し該当部分などの省略を示す
- || 比喩的な意味や発展的な意味を示す
- ⋮ これ以下に示す情報がこの前の全体にかかることを示す
- * 用法の補足的な説明や注記などを示す
- () 用例などの補足的な説明
- ↑, ↓ 解説文が上または下の行に続くことを示す

略語一覧

- 中 原籍が中国語であることを示す
- 朝 原籍が朝鮮語であることを示す
- 日 日本で外国語にならって作られた語であることを示す
- (五) 五段活用の動詞 (下) 下一段活用の動詞
- (上) 上一段活用の動詞 (カ) カ行変格活用の動詞
- (サ) サ行変格活用の動詞および複合サ変の動詞
- (タ) 形容動詞 (形) 形容詞
- (副) 副詞 (体) 連体詞
- (接) 接続詞 (代) 代名詞
- (感) 感動詞 (助) 助詞
- (助動) 助動詞 (連) 連語
- ㊦ 語構成要素
- ㊧ 接頭語 ㊨ 接尾語
- ㊩ 擬音語 ㊪ 擬態語
- (と副) 「と」が付いて副詞として使われることを示す
- ((と副) 「と」が付くか、あるいは「と」が付かずに副詞として使われることを示す
- (形名) 形式名詞 (補動) 補助動詞
- (文) 文章語 (仏) 仏教語
- (俗) 俗語 (哲) 哲学の用語
- (IF) 今では使わない表現 (法) 法律の用語
- (古) 古語
- ㊫ 対義語 ㊬ 類義語 ㊭ 派生語
- ㊮ 名詞が見出しの場合、その動詞形
(動詞が見出しに立っていない場合だけ)

類似の表現の記述が連続する場合、-と()を組み合わせ、下に示すように、記述を合併して示した。

- 例 …する-こと(人) → 「…すること」と「…する人」の合併
 …する役(-の人) → 「…する役」と「…する役の人」の合併
 (遠くへ)投げる → 「遠くへ投げる」と「投げる」の合併
 …する(-重い)もの → 「…するもの」と「…する重いもの」の合併

あ

あい(感) ああ。

あ[亜] Ⅰアジア。*亜細亜から。Ⅱ㊦準じる。▶〜熱帯

ああ(副) あのように。▶〜した(=あのような)

ああ(感) ①嘆声の一。*嗚呼は文語的表記。②肯定・承知・受け答えの語。▶〜、そう ③呼びかけの語。▶〜、きみきみ ◇*「あ」とも、㊦は目上に使うと失礼。

アーガイル argyle 洋服で、ひし形模様。

アーケとう[一灯] 電灯の一。2つの電極間で弓形の光を発する。*アーケは弧の意。

アーケード arcade ①商店街で、日よけ・雨よけの屋根をつけた道。②大建造物で、丸い天井をもつ通路。

アーゴノミクス ergonomics 工業デザインの方法の一。人間工学。

アース earth ①電気機器と大地を結ぶこと。また、そのコード。接地線。

アーチ arch ①建築の構造で、弓形(の門)。②野球で、ホームラン。▶〜をかける

アーチェリー archery 洋弓(一術)。また、その競技。 ㊦アルチゼン

アーティスト artist 芸術家。アーティスト。

アーティチョーク artichoke 西洋野菜の一。つばみを食べる。チョウセンアザミ。

アート art ①芸術。美術。②アート紙。▶〜紙。つやのある上質紙。▶〜シアター theater 芸術映画専門の劇場。▶〜ディレクター director ①演劇の美術監督。②広告美術の専門家。

アーバン urban ㊦都会の。▶〜ライフ

アーベント Abend 夜に催す音楽会(映画会)。…の夕べ。▶ショパン〜 *夕方

の意。

アーミー army 軍隊。特に、陸軍。▶〜

ルック look 兵士風の服装。

アーミン ermine イタチ科の動物。オコ

ヨ(の毛皮)。エルミン。

アーム arm ①腕。②うで状のもの。▶ミ

シンの〜 ▶〜チェア chair ひじ掛け

す。▶〜ホール hole 洋服のそでぐり。

アーメン amen (感) キリスト教で、祈りなどの後に唱える語。*確実・まことに

の意。

アーモンド almond バラ科の小高木。実

は菓子・料理の材料や薬用に。

アーリア人 Aryan [一人] インドヨーロッパ語

族の人々。*アーリアは梵語で高貴の

意。 「m²」

アール are ㊦面積の単位の一。100

アール art ▶〜デコ deco 装飾

アーンドラン earned run 野球で、自責

点。*投手成績の優劣の基準にする。

あい[相] ㊦ ①一緒に。▶〜乗り ②互

に。▶〜知る ③語調を整える。▶〜成らぬ

あい[合] 合い着。合い服。

あい[愛] ①かわいがり大切に思うこと

(心)。②恋。▶〜の結晶(連) 愛し合

う男女の、子供。▶〜の(連) 愛する

がゆえにとる厳しい態度。

あい[藍] ①タデ科の一年草。②アイの

葉や茎から採る染料(の)色。藍色。

アイ eye 目。Ⅱ目に似たもの。▶カメラ

あいあい[相合] 一本の傘を男

女ふたりでさすこと。

アイアン iron ボールを打つ部分が鉄製の

ゴルフクラブ。*鉄の意。㊦ウッド

あい[相] ㊦ ①互に。▶〜一致しない(受け入れ

ない)。

あい[藍] ㊦ 濃い青色。インゴ。

あい[合] ㊦ 書類や帳簿で、照合のし

るしに押す印。合判。

あいうち[相打ち・相討ち・相撃ち] 両者

が同時に打ち合うこと。Ⅱあいて。

あいえんか[愛煙家] タバコが好きな人。

あいえんきえん[合縁奇縁] 男女の気が

合う合わぬは、みなふしぎな縁による。

あいか[哀歌] 悲しい思いの歌。エレジー。

あいがかり[相懸かり] ①将棋の序盤で、

双方が同様の駒組みで対すること。②敵

味方が同時に互いに攻め合うこと。

あいかぎ[合い鍵] その錠に合う別の鍵。

あいかた Ⅰ[相方] ①相手。②(遊里で)客の相手の遊女。Ⅱ[合

方] ①能で、はやし(一方)。②歌舞伎で、せ

あ

なくてかわいらしい。

あいきん〔愛犬〕 かわいがっている犬。また、犬をかわいがること。▶～家

あいこ〔相子〕 勝負なし。㊟ひきわけ

あいこ〔愛顧〕(名) 引き立てること。ひいき。

▶ご～をいただく ㊟恩顧 「と。

あいご〔愛護〕(名) かわいがり大事にすること

あいこう〔愛好〕(名) 愛し好むこと。▶～者

あいこう〔愛校〕 自分の学校を愛すること。▶～心

あいごう〔哀号〕(名) ①悲しみ叫ぶこと。②(中国・朝鮮で)葬式の際、泣き叫ぶこと。また、そのときに言う語。

あいこく〔愛国〕 母国を愛すること。

あいことば〔合い言葉〕 ①仲間を確認する合図の言葉。②主義や主張を示す標語。

あいごま〔間駒〕 将棋で、防御のために打つ駒。あい。▶～がきく

あいさい〔愛妻〕 妻を愛し大切にすること。また、その妻。▶～家

あいさつ〔挨拶〕(名) ①「こんにちは」や「さようなら」などの言葉。②会合や集会の儀礼的な言葉(を述べること)。▶就任の～ ③うけこたえ。▶～に困る ④「ごあいさつ ▶～代わり。交際のための、あいさつの代わりとなるもの(品物)。

あいし〔哀史〕 悲しい歴史(物語)。

あいじ〔愛児〕 かわいがっている自分の子供。

あいしあう〔愛し合う〕(五) 互いに愛する。「イ」。

あいしゃ〔愛車〕 愛用の自動車(オートバ)

あいじゃく〔愛着〕(名) あいちゃく。

アイシャドー eye shadow 目の周りに塗って、目元を引き立たせる化粧品。

あいしゅう〔哀愁〕 やるせない悲しみ。

あいしよ〔愛書〕 ①本が好きなこと。▶～家 ②愛読書。

あいしょう〔哀傷〕(名) 悲しみに心をいめること。「合うこと」。

あいしょう〔相性〕 ふたり(男女)の気性が

あいしょう〔愛称〕 ニックネーム。あだ名。

あいしょう〔愛唱〕(愛・誦)(名) 好んでいずさむこと。▶～歌。好んで歌う歌。

あいじょう〔愛情〕 愛する気持ち。

あいじん〔愛人〕 ①恋人。②情人。

あいす〔愛す〕(五) あいする。

アイス ice ①こおり。②アイスクリーム・アイスキャンデーの略。③高利貸しの俗称。*氷菓子と同音から。▶～キャンデー。▶～candy 棒状の氷菓子。▶～キューブ。▶cube 角氷。▶～クリーム。▶cream 冷たい乳製品の一。▶～コーヒー。▶coffee 冷たいコーヒー。▶～ショー。▶show アイススケートによるショー。▶～スケート。氷上をすべるスケート。*ice skating から。▶～スマック。▶smack チョコレートで包んだアイスクリーム。スマック。▶～ダンス。フィギュアスケートの種目の一。男女のペアで踊る。*ice dancing から。▶～ティー。▶tea 冷たい紅茶。▶～ピック。▶pick 氷を割る鎌。▶～ペール。▶pail 氷入れ。▶～ボックス。▶box 氷で冷やす(携帯用の)

冷蔵庫。▶～ホッケー。▶hockey 氷上でスケートをはいてするホッケー。1チーム6人。▶～ミルク。▶milk ①冷たい牛乳。②アイスクリーム状食品の一。*乳固形分10%以上、乳脂肪分3%以上。

あいず〔合図〕(名) 前もって決めたサイン。

アイスパーン Eisbahn 積雪の表面が氷のようになった状態。

あいすべき〔愛すべき〕(体) かわいくて親しみを感じる。

あいする〔愛する〕(名) ①かわいがり大切にすること。②好む。▶酒を～ ③恋する。

あいせき〔合い席・相席〕(名) (飲食店で)他の客と同席すること。

あいせき〔哀惜〕(名) (文)人の死などを悲しみ惜しむこと。

あいせき〔愛惜〕(名) ①愛して大切にすること。②おしむこと。▶落花に対する～

あいせつ〔哀切〕(名・タ) 哀れで悲しいこと。

あいせん〔相先〕 碁や将棋で、互い先。

アイゼン 登山靴につけるすべり止めの金具。*Steigeisen から。

あいぜんごして〔相前後して〕(連) 次々に。

あいそ〔哀訴〕(名) 寂ながらに訴えること。

あいそ〔愛想〕 ①人当たりがよいこと(言葉)。②もてなし。▶何の～もない ③「おあいそ」*「あいそう」の転。▶～が尽き。きりやけがさす。▶～がな。い人当たりが悪い。▶～尽つかし。いやになって、見捨てること。▶～もこそも尽き果て。てまうまくらいになる。▶～笑い。②相手へつらうつくり笑い。

あいそう〔愛想〕 あいそ。

あいそう〔愛憎〕 愛と憎しみ。

あいそう〔愛蔵〕(名) 大切にしまっておくこと。▶～版

アイソタイプ isotype 絵文字言語。*international system of typographic picture education の略。/オーストリアのオートーノイラストが開発。「素」。

アイソトープ isotope 同位体。同位元。

あいた〔開いた〕 ▶～口。がふさがら

ない。あきれてものも言えない。

あいた〔間〕 ①時間・空間のへだたり。また、その範囲。②なか。▶木立ちの～ ③関係。▶親子の～ ▶～柄。人と人との関係。▶～に立つ。仲介する。

あいたい〔相対〕 差し向かい(対等)で物事をする。▶～尽く。互いに承知(相談)の上ですること。

あいたい〔相対する〕(名) ①互に向かい合う。②対立する。

あいたしゅぎ〔愛他主義〕 他人の利益と幸福をめざして行動する主義。対利己主義。「に協力する」。

あいたずさ〔えろ〕〔相携える〕ト。互い。

あいちゃく〔愛着〕(名) 心ひかれ思ひ切れないこと。あいじゃく。執着・木練

あいちよう〔哀調〕 もの悲しい調子。

あいちよう〔愛鳥〕 ①(野生の)鳥をかわいがること。②かわいがっている鳥。▶～週間。▶bird week 5月10日から1週間。

あいつ(彼・奴)(代)「あの人・あれ」のそんな言い方。*「あやつ」の転。

あいついて[相次いで](副)次々と。

あいつ・く[相次ぐ](五)次々に続く。

あいつち 相[達・相] [達] ▶～を打つ・つ 人の話に受け答えをし、うなづく。*鍛冶場で、2人が互いに鎚を打ち合うことを相鎚と云った。

あいて[相手] ①対象となる-もの(人)。②仲間。▶遊び～ ③敵。▶～に不足はない ▶～次第、物事が相手の出方で決まること。▶～取る。(五)争いの相手とする。▶～にならない。実力などに差がありすぎて、対抗できない。

アイデア idea 着想。アイディア。▶～マン ▶～man 名案を次々に出す人。

アイディーカード ID ー 身分証明書。*identify card の略。「うし。

あいでし[相弟子] 同じ先生に学ぶ者ど。

アイテム item ①(新聞記事やデータの)項目。②(収集品や服の)品目。▶人気の～

アイデンティティー identity 自分は自分であって、他人とは違うこと。自己同一性。

あいとう[哀悼](名) 人の死を悲しむいたむこと。▶～の辞(連)くやみの言葉。

あいどく[愛読](名) 好んで読むこと。

あいともなう[相伴う](五) ①連れだつ。②一緒に現れる。

アイドリング idling (名) 機械(自動車)のエンジンを空転させること。*回転数の調整のために行なう。

アイドル idol 崇拜される-人(物)。また、人気者。

あいなかば・する[相半ばする](名) 半分ずつの状態だ。▶功罪～

あいなめ [鰯]並 近海魚の一。あぶらめ。「た言い方。

あいな・る[相成る](五)「なる」の改まつ

あいにく(生憎・合憎)(名)副(ダ) 具合がわるいようす。▶～(と)留守だ

アイヌ 北海道や樺太などに住む民族。*古くは「えぞ」「えみし」とよばれた。/アイヌ語で、人の意。

あいのこ[合いの子・間の子] 混血児。雑種。|| 中間的なもの。

あいのて[合いの手・間の手] 歌や踊りに合わせて入れる手拍子やかけ声。*もとは、歌と歌の間の、三味線の演奏。|| 話と話の間にはさむ言葉。▶～を入れる

あいのり[相乗り](名) 乗り物と一緒に乗ること。|| 共同で事業などをすること。

あいば[愛馬] かわいがっている馬。また、馬をかわいがること。

あいは・む[相食む](五) 食い合う。▶骨肉～(血縁関係にある者どうしが争う)

あいはん[合判] あいひん。

アイバンク eye bank 失明者への角膜移植をあっせんする機関。目の銀行。

あいはん・する[相反する](名) 一致しない。

アイビー ivy ツタの一種。▶～スタイル ▶～style アイビールック。▶～リーグ

Ivy League アメリカ東部の8大学で結成するリーグ。▶～ルック アイビールーグの学生風の服装。*Ivy League look から、

あいびき[合挽き] 牛と豚の肉をまぜて-挽くこと(挽いた肉)。

あいびき[逢引き](名) 男女の密会。

あいびよう[愛猫] かわいがっている猫。また、猫をかわいがること。

あいぶ[愛撫](名) かわいがりなでさすること。

あいふく[合服・間服] 冬服と夏服の間に着る衣服。

あいふだ[合札] ①金や品物を預かった証拠に渡す札。②割り符。

アイブロー eyebrow まゆ毛。

あいばや[相部屋] 他人どうしが同じ部屋に泊まること。

あいば[愛慕](名) 愛し慕うこと。◎恋慕

あいばう[相棒] 共同で仕事をする-人(相手)。*もとは駕籠を一緒にかつぐ相手。

あいばし[相星] 両者の勝ち数が同じ状態。*相撲で、勝ち負けの数が同数の意。

アイボリー ivory 象牙(-色)。

あいま[合間] ①物と物との間。②続いている物事の切れめ。▶仕事の～

アイマーク eye mark 出版物で、視覚障害者のために著作権を無料で提供する意思表示の印。

あいまい[曖昧](ダ) はっきりしないようす。◎明瞭。◎～さ ▶～模[糊](名) (と副) (たる体) ぼんやりしてはっきりしないようす。「合わさって、

あいまって[相俟って](副) 互いの力が

アイモ Eyemo 小型35ミリ撮影機。*商標。/ニュース映画に用いられた。

あいまかわらぬ[相も変わらぬ](連) いつもと変わらない。*さげすみの気持ちを含み。

あいやど[相宿] 同じ宿に泊まりあわせること。

あいよう[愛用](名) 好んで使うこと。

あいはく[愛欲](愛慾) 異性への性的な欲望。◎性欲・情欲

アイライン eye line 化粧で、目にそって描く線。目ばり。

あいらく[哀楽] (文) 悲しみと楽しみ。▶喜怒哀～ ◎哀歓・悲喜

あいらしい[愛らしい](形) かわいらしい。◎～さ

アイリス iris アヤメ科の多年草。4～5月に開花。「がり。

アイレット eyelet 刺繍で、穴の縁か

あいにん[愛隣] (文) いくしむこと。

あいろ[隘路] (文) 狭くて険しい道。|| 障害。「語。

アイロニー irony ①皮肉。風刺。②反

アイロン iron 熱で布地のしわをのばす器具。▶～をかける

あいわ[哀話] かわいそうな物語。◎悲話

あいわ・す[相和す](五) 仲よくする。

あ・う(五) ①[合う] ①集まってひとつになる。◎離れる ②あてはまる。▶基準に～ ③ひきあう。▶割にあわない ④◎互いに…する。▶話し～ ⑤[会う] (逢う) ①対面する。②偶然であう。③[遭う] (遇う) 経験する。▶災難に～ *多く好ましくない場合に使う。▶～(会う)は別れの始め。会うことは、別れるという運命の前提である。